

中間評価票

課題名: 将来のHPCIシステムのあり方の調査研究 「高メモリバンド幅アプリケーションに適した将来の HPCI システムに関する調査研究」	
主管事業実施機関	東北大学
共同事業参画機関	海洋研究開発機構, 日本電気株式会社

評価結果	
① 社会的・科学的課題の達成可能性	<p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合防災については、社会的・科学的アプローチをトータルで行っており、課題が明確になっている。 H25年度においては、ものづくり分野についてさらなる検討を深めるとともに、より広い領域を対象とすることも検討されたい。
② システム開発に必要な要素技術の実現可能性、その開発に必要な期間、展開可能性	<p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ベクトル計算機を基本としたアーキテクチャとして、主要な要素技術の検討は適切に行われている。 H25年度においては、特に三次元メモリ技術の実装について、検討を深め実現可能性を検討されたい。
③ システムの消費電力、耐故障性、信頼性	<p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価の段階としては適切に検討されている。 H25年度においては、検討の精度をより高めること。
④ システム製造経費、設置面積、運用経費	<p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価の段階としては適切に検討されている。 H25年度においては検討の精度をより高めること。
⑤ システムの評価アプリによる性能評価(ただし中間評価時はターゲットアプリによる評価)	<p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターゲットアプリは妥当であると思われるが、他アプリへの拡張性が弱い面もある。 H25年度においては、アプリチームとも連携してより広いアプリも検討するとともに、総合防災のシミュレーションにおける各アプリの連携について、より検討を深められたい。

中間評価票

課題名: 将来のHPCIシステムのあり方の調査研究 「レイテンシコアの高度化・高効率化による将来の HPCI システムに関する調査研究」	
主管事業実施機関	東京大学
共同事業参画機関	東京大学、九州大学、富士通、日立製作所、日本電気

評価結果
<p>① 社会的・科学的課題の達成可能性</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 環境分野とナノデバイス分野において4つのアプリを掲げている点は明確。・ 設定したアプリでどのように社会的・科学的課題に取り組もうとしているのかについては、更なる明確化が必要。・ H25年度においては、より広い領域を対象とすることも検討されたい。
<p>② システム開発に必要な要素技術の実現可能性、その開発に必要な期間、展開可能性</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 必要となる要素技術の抽出は十分実施されており、実現可能性は期待できる。・ H25年度において、設定されたアプリとハードウェア設計との関係性について、より詳しく整理されたい。
<p>③ システムの消費電力、耐故障性、信頼性</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中間評価の段階としては適切に検討されている。・ H25年度においては、検討の精度を高めること。
<p>④ システム製造経費、設置面積、運用経費</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中間評価の段階としては適切に検討されている。・ H25年度においては、検討の精度を高めること。
<p>⑤ システムの評価アプリによる性能評価(ただし中間評価時はターゲットアプリによる評価)</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ターゲットアプリは妥当であると思われ、他アプリへの拡張性も感じられる。・ H25年度においては、アプリチームとも連携してより広いアプリも検討するとともに、根拠も含めてより信頼度の高い評価結果が得られることを期待する。

中間評価票

課題名: 将来のHPCIシステムのあり方の調査研究 「演算加速機構を持つ将来の HPCI システムに関する調査研究」	
主管事業実施機関	筑波大学
共同事業参画機関	東京工業大学、理化学研究所、会津大学、日立製作所

評価結果
<p>① 社会的・科学的課題の達成可能性</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ アクセラレータによる加速が有効な分野という点でターゲットは明確になっている。・ H25年度において社会的課題について、より深く検討されたい。
<p>② システム開発に必要な要素技術の実現可能性、その開発に必要な期間、展開可能性</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主要な要素技術の検討は適切に行われている。・ ホストマシンに依るところが大きいとため、他システム設計チームと連携し、完成したときのシステムイメージの明確化に努められたい。・ H25年度については、グループ間ネットワーク、ホストとのインタフェース、ソフト開発について更なる検討をされたい。
<p>③ システムの消費電力、耐故障性、信頼性</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中間評価の段階としては適切に検討されている。・ H25年度においては、検討の精度を高めること。
<p>④ システム製造経費、設置面積、運用経費</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中間評価の段階としては適切に検討されている。・ H25年度においては、検討の精度を高めること。
<p>⑤ システムの評価アプリによる性能評価(ただし中間評価時はターゲットアプリによる評価)</p> <p>妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ターゲットアプリは妥当であると思われ、他アプリへの拡張性も感じられる。・ H25年度においては、アプリチームとも連携してより広いアプリも検討するとともに、完成したシステムのイメージを深めつつより検討の精度を高めること。